〈研究ノート〉

日本の民謡と音楽デジタル教科書に対する意識調査

－教員養成と現職教育の側面から－

鈴木慎一朗

Examination of Consciousness about Japanese Folk Song and Digital Textbooks for Music Education: Approach to Teacher Training and In-service Training for Teachers

SUZUKI Shinichiro

キーワード：日本の民謡，音楽デジタル教科書，教員養成，現職教育
Key Words：Japanese Folk Song, Digital Textbooks for Music Education, Teacher Training, In-service Training for Teachers

はじめに

本稿の目的は，小学校教諭免許状を取得希望の学生ならびに教員免許状更新講習の受講者における日本の民謡と音楽デジタル教科書に対する意識を明らかにし，音楽デジタル教科書を活用した指導法開発を行う際に必要とされる基礎資料を得ることである。

「「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議」は，以下のように言及する[1]。

> 授業の質は，ICT 活用指導力等の教員の指導力によって大きく左右される可能性がある。デシダル教科書の導入によって，個々の教員の指導力に大きな差が生じることのないよう，大学の教員養成課程や，独立行政法人教員研修センター，各教育委員会等における研修等を通じて，ICT 活用指導力を含めた教員の指導力向上のための取組の充実が必要である。

このように教員養成ならびに現職教育の両側から ICT 活用指導力向上が求められている。

ところで 2017（平成 29）年に告示された小学校学習指導要領においても伝統や文化に関する教育の充実が重要視され，音楽においては我が国や郷土の音楽の重要性が強調されている[2]。これまでに筆者は日本の民謡に着目して研究を進めており，音楽デジタル教科書を活用した指導法の開発を行っている[3]。すでに小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡の掲載状況についての分析を行い，「音声」が掲載されていたものの，西洋化された音楽表現である課題点を指摘した[4]。では，教員養成の段階に当たる小学校教諭免許状を取得希望の学生ならびに現職教育の段階に当たる教員免許状更新講習の受講者は，日本の民謡や音楽デジタル教科書に対してどのような意識を抱いているのだろうか。『デジタル教科書に関する意見聴取報告書』において多様な調査結果が報告されているものの，音楽に特化した調査ではないため示されていない[5]。また，学生の意識については調査されていない。そこで本稿では，学生や現職教員に対してアンケート調査を実施し，実態を明らかにしたい。

１．小学校教諭免許状を取得希望の学生の意識

鳥取大学地域学部地域教育学科で前期に開講されている「音楽学習指導論」は，小学校教諭免許状を取得する際に必修とされる「教職に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する。第 11 回目の授業内容は

「小学校音楽科の指導内容　日本の音楽」であり，音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法について講義した（写真１）。

学生の意識を調査するために，授業開始前と終了後に，日本の民謡と音楽デジタル教科書に関するアンケート調査を行った。対象者及び調査日は以下の通りである。

１．対象　　：鳥取大学地域学部地域教育学科 41 名
２．実施日　　：2017（平成 29）年６月 27 日（火）
３．実施場所　　：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター　アートプラザ
４．倫理的配慮事項：調査票の記載事項および集計結果については本研究の目的以外には使用しないこと，また無記名であり，調査結果は統計的に処理されるため個人は特定されないことについて説明し，調査実施の承諾を得た。回収した調査票における個人情報の取り扱いについては守秘義務を遵守し，ＩＤを付して管理し，データ処理を行った。

写真１　「音楽学習指導論」における音楽デジタル教科書の実践

注　2017（平成 29）年６月 27 日（火）

図１は，「日本の民謡が好きか」の回答を示したものである。

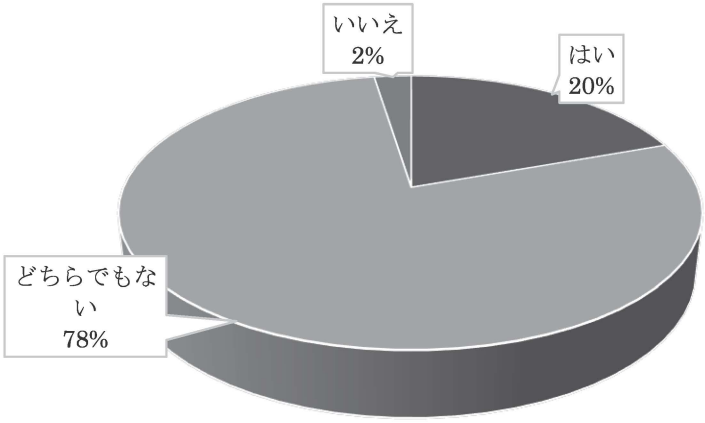

図１　日本の民謡が好きか？

回答数が最も多かったのは「どちらでもない」（32 人）で，続いて「はい」（８人）であった。「いいえ」は１人のみで低い値となった。全体として日本の民謡に対して好きでも嫌いでもない学生が 78%占めることが分かった。

「小学校での日本の民謡の学習が必要か」の回答は，図２のようになった。

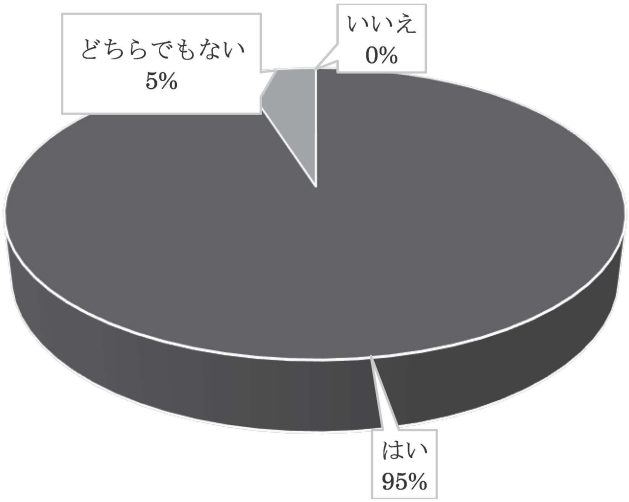

図２　小学校での日本の民謡の学習が必要か？

回答数が最も多かったのは「はい」（39 人）で，「どちらでもない」（２人）であった。「いいえ」は０人で低い値となった。全体として小学校での日本の民謡の学習を必要と感じている人が 95%と大部分を占めていることが分かった。

「小学校において日本の民謡を教える際，不安があるか」の回答は，図３のようになった。

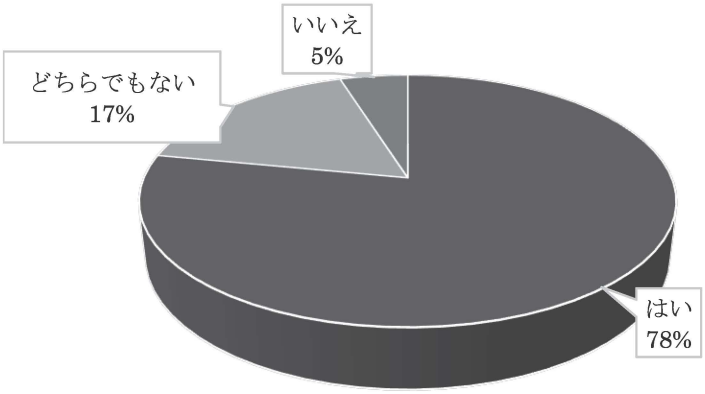

図３　小学校において日本の民謡を教える際，不安があるか？

回答数が最も多かったのは「はい」（32 人）で，続いて「どちらでもない」（７人）であった。「いいえ」は２人のみで低い値となった。全体として日本の民謡を教える際に不安を感じている学生が 78%占めていることが分かった。

「小学校において日本の民謡を教える際，範唱することができるか」の回答の結果が表１である。

表１　小学校において日本の民謡を教える際，範唱することができるか？

できる	ややできる	あまりできない	できない
1	5	23	12
(3%)	(12%)	(56%)	(29%)

日本の民謡の範唱に関して「あまりできない」「できない」の回答が 85%も占める。

「小学校において日本の民謡を教える際，音楽デジタル教科書を使用したいか」の回答は，図４のようになった。

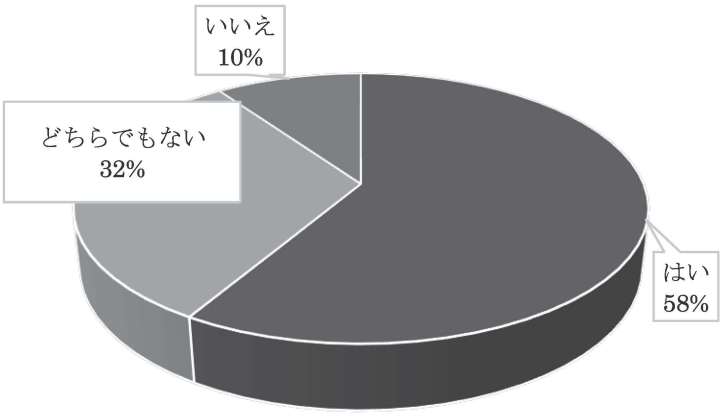

図４　小学校において日本の民謡を教える際，音楽デジタル教科書を使用したいか？

回答数が最も多かったのは「はい」（24 人）で，続いて「どちらでもない」（13 人）であった。「いいえ」は４人のみでやや低い値となった。「いいえ」の理由としては，「字が小さい。逆に時間がかかりそう」「機械が苦手だから」「実際のものがよいと感じたから」（１人は無記入）が挙げられた。全体として 58%の学生が音楽デジタル教科書を使用したいと意識していることが分かった。

日本の民謡の範唱の能力と音楽デジタル教科書の使用希望の関係を，クロス集計した結果を表２に示す。範唱ができると回答した１名においても音楽デジタル教科書の使用を希望している。また相関係数が 0.07461 であることから，範唱の能力と音楽デジタル教科書の使用希望にはほとんど関係ないと推測される。

表２　範唱と音楽デジタル教科書使用

		音楽デジタル教科書の使用		
		はい	どちらでもない	いいえ
範唱	できる	1	0	0
	ややできる	3	1	1
	あまりできない	14	7	2
	できない	6	5	1

図５は「今後，音楽デジタル教科書の普及を期待するか」の回答結果である。

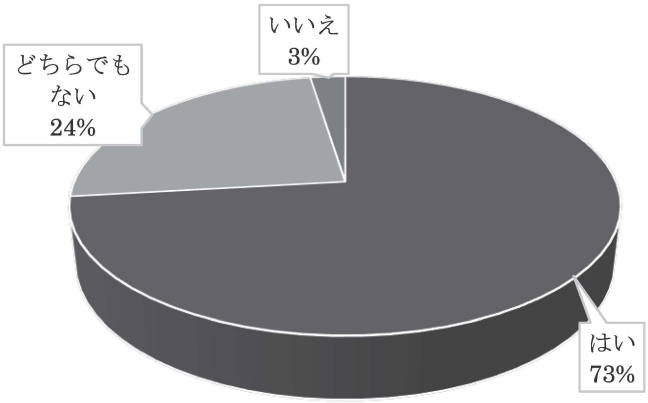

図５　今後，音楽デジタル教科書の普及を期待するか？

回答数が最も多かったのは「はい」（30 人）で，続いて「どちらでもない」（10 人）であった。「いいえ」は１人のみで低い値となった。全体として 73%の学生が音楽デジタル教科書の普及に期待しているということが明らかとなった。

このように 78%の学生は日本の民謡に対して好きでもなく嫌いでもない中庸であるのに対し，95%の学生が学習することの重要性を痛感していた。範唱が可能な学生は 15%に留まり，78%が指導上の不安を感じていた。音楽デジタル教科書については，58%の学生が使用したいと回答し，78%の学生が期待を寄せていることが明らかとなった。

２．教員免許状更新講習の受講者の意識

2017（平成 29）年度教員免許状更新講習である「新しい音楽教育の理論と実際」の中で受講者の意識を調査するために，日本の民謡と音楽デジタル教科書に関するアンケート調査を行った。対象者及び調査日は以下の通りである。

１．対象　　：平成 29 年度教員免許状更新講習「新しい音楽教育の理論と実際」の受講者 20 名
（幼稚園：５名，小学校：13 名，高等学校：１名，特別支援学校：１名）

２．実施日　　：2017（平成 29）年８月 10 日（木）

３．実施場所　　：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター　アートプラザ

４．倫理的配慮事項：調査票の記載事項および集計結果については本研究の目的以外には使用しないこと，また無記名であり，調査結果は統計的に処理されるため個人は特定されないことについて説明し，調査実施の承諾を得た。回収した調査票における個人情報の取り扱いについては守秘義務を遵守し，ＩＤを付して管理し，データ処理を行った。

図６は，「日本の民謡が好きか」の回答を示したものである。

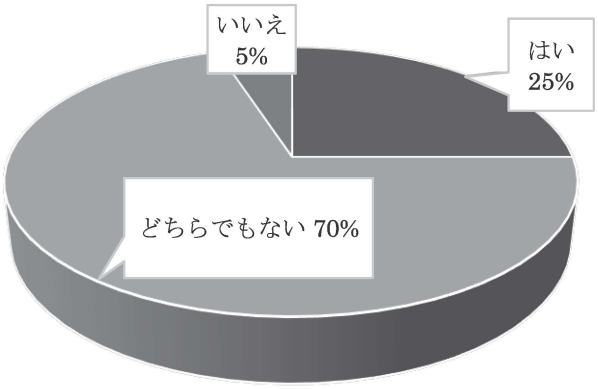

図６　日本の民謡が好きか？

回答数が最も多かったのは「どちらでもない」（14 人）で，続いて「はい」（５人）であった。「いいえ」は１人のみで低い値となった。全体として日本の民謡に対して好きでも嫌いでもない教員が 70%占めることが分かった。

「小学校での日本の民謡の学習が必要か」の回答は，図７のようになった。

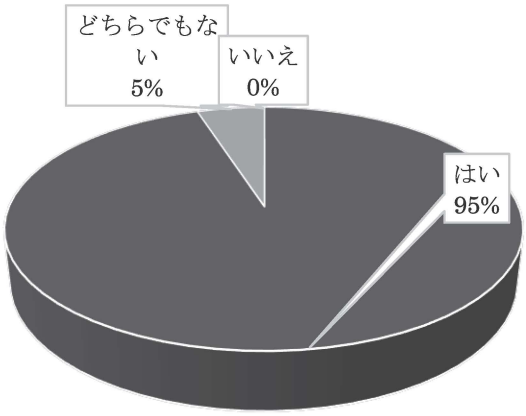

図７　小学校での日本の民謡の学習が必要か？

回答数が最も多かったのは「はい」（19 人）で，「どちらでもない」（１人）であった。「いいえ」は０人で低い値となった。全体として小学校での日本の民謡の学習を必要と感じている教員が 95%と大部分を占めていることが分かった。

「小学校において日本の民謡を教える際，不安があるか」の回答は，図８のようになった。

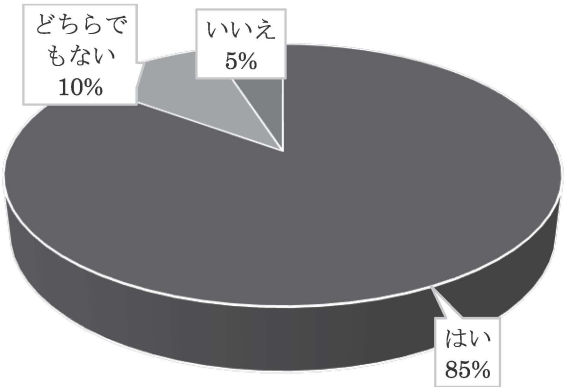

図８　小学校において日本の民謡を教える際，不安があるか？

回答数が最も多かったのは「はい」（17 人）で，続いて「どちらでもない」（２人）であった。「いいえ」は１人のみで低い値となった。全体として日本の民謡を教える際に不安を感じている人が 85%占めていることが分かった。

「小学校において日本の民謡を教える際，範唱することができるか」の回答の結果が表３である。

表３　小学校において日本の民謡を教える際，範唱することができるか？

できる	ややできる	あまりできない	できない
0 (0%)	2 (10%)	8 (40%)	10 (50%)

日本の民謡の範唱に関して，「あまりできない」「できない」が 90%も占める。

「小学校において日本の民謡を教える際，音楽デジタル教科書を使用したいか」の回答は，図９のようになった。

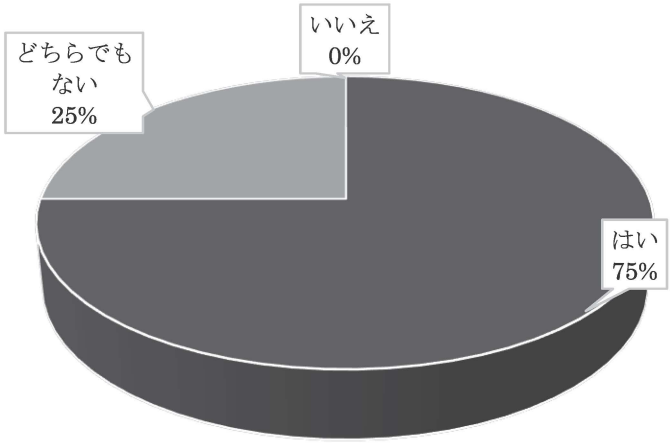

図９　小学校において日本の民謡を教える際，音楽デジタル教科書を使用したいか？

回答数が最も多かったのは「はい」（15 人）で，続いて「どちらでもない」（5 人）であった。「いいえ」は０

人のみで低い値となった。全体として 75%の教員が音楽デジタル教科書を使用したいと意識していることが分かった。

日本の民謡の範唱の能力と音楽デジタル教科書の使用希望の関係を，クロス集計した結果を表４に示す。範唱がややできると回答した２名の内１名は，音楽デジタル教科書の使用を希望している。また相関係数が-0.17408 であることから，範唱の能力と音楽デジタル教科書の使用希望にはほとんど関係ないと推測される。

表４　範唱と音楽デジタル教科書使用

		音楽デジタル教科書の使用		
		はい	どちらでもない	いいえ
範唱	できる	0	0	0
	ややできる	1	1	0
	あまりできない	6	2	0
	できない	8	2	0

図 10 は「今後，音楽デジタル教科書の普及を期待するか」の回答結果である。

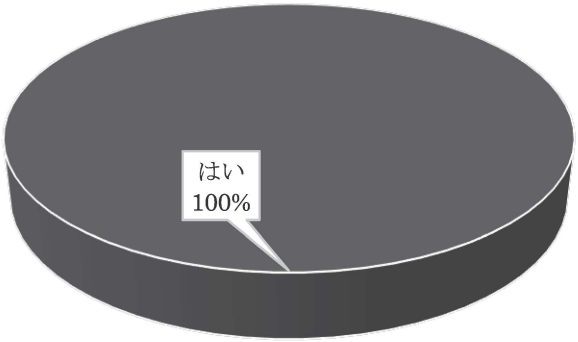

図 10　今後，音楽デジタル教科書の普及を期待するか？

20 人全員の教員が「はい」と回答し，音楽デジタル教科書の普及に期待しているということが明らかとなった。

このように 70%の教員は日本の民謡に対して好きでもなく嫌いでもない中庸であるのに対し，95%の教員が学習することの重要性を痛感していた。範唱が可能な教員は 10%に留まり，85%が指導上の不安を感じていた。音楽デジタル教科書については，75%の教員が使用したいと回答し，100%の教員が期待を寄せていることが明らかとなった。

おわりに

「日本の民謡が好きか」の回答では，学生の 78%，教員の 70%が「どちらでもない」を選択し，中庸であったのに対し，学生，教員とも 95%の人が学習の必要性を痛感していた。日本の民謡の範唱については，学生の 15%，教員の 10%が可能と回答したに留まり，学生の 78%，教員の 85%が指導上の不安を感じていた。このように日本の民謡に対しては，世代，立場は異なるものの，学生，教員ともにほぼ同様の意識を抱いていることが明らかになった。

一方，音楽デジタル教科書については若干意識が異なった。58%の学生は音楽デジタル教科書を使用したいと回答し，78%の学生が普及を望んでいた。それに対し，教員の 75%が使用したいと回答し，100%の教員が普及を望み，強い期待を寄せていることが明らかとなった。ICT に強いと思われる若者である学生よりも，教員

の方が音楽デジタル教科書の使用を希望し，普及に期待を寄せていた。この背景には，教員における ICT に対する苦手意識が払拭しつつある傾向が見受けられる。別の見方をすると，多少 ICT に対して抵抗があっても，日本の民謡の範唱がうまくできず，思うように指導ができないことが起因となって，音楽デジタル教科書への期待へと結び付いたと考えることもできる。

今後も引き続き，大学の授業ならびに教員免許状更新講習等の場において，音楽デジタル教科書を取り上げ，普及を図ると同時に，ICT 活用指導力の育成に努めていきたい。さらに音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の効果的な指導法の開発も行い，学生や教員の不安を払拭していきたい。

＜謝辞＞

本研究は，JSPS 科研費　JP17K04785 の助成を受けたものです。

＜付記＞

本稿の一部を日本音楽教育学会第 48 回大会（2017 年 10 月，於：愛知教育大学）の共同研究Ⅸパネルディスカッション「小学校教育におけるＩＣＴ，プログラミング学習，アクティブ・ラーニングを問う－教員養成段階における真の学習者を育てるための議論の整理－」において報告した。

鈴木慎一朗（鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース）

＜注＞

---

1 「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議『「デジタル教科書」の位置付けに関する検討会議　最終まとめ』2016 年 12 月，25 頁。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/110/houkoku/__icsFiles/afieldfile/2017/01/27/1380531_001.pdf
（2017 年２月７日閲覧）

2 文部科学省「小学校学習指導要領」2017 年 。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf
（2017 年 11 月 23 日閲覧）

3 音楽デジタル教科書に関する先行研究として以下が挙げられる。坂本暁美「音楽科デジタル教科書の内容に関する一考察：教員養成課程の学生・初任教師の授業支援ツールとして」『四天王寺大学紀要』第 58 号，2014 年，217-229 頁。坂本暁美「音楽を教えることに不安を感じる教師にとってのデジタル教科書の可能性：教員養成課程の学生の模擬授業を通して」『四天王寺大学紀要』第 60 号，2015 年，245-257 頁。坂本暁美「小学校音楽科デジタル教科書活用の実証研究」『四天王寺大学紀要』第 61 号，2016 年，177-196 頁。

4 鈴木慎一朗「小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡の基礎調査：《こきりこ》を事例として」『地域学論集』（鳥取大学地域学部紀要）第 14 巻第１号，鳥取大学地域学部，2017 年，123-136 頁。

5 赤堀侃司　研究代表『研究報告　デジタル教科書に関する意見聴取報告書：学習者用デジタル教科書をどう考えるか（座談会）』No.89，公益財団法人中央教育研究所，2016 年。